



97番学校 生徒：2200人 教師：90人（教師以外の職員を入れると100人超）

私の学校は、1年生から11年生までの生徒が通う統合学校です。日本でいうと小学校から高校まで生徒が通っています。そのため、学年によって登校時間が違い、8時に登校する学年と1時半に登校する学年があります。（二部制）

4学期制で、1学期は9月から11月中旬、2学期は11月後半から1月中旬、3学期は1月末から4月まで、4学期は5月、6月です。学期の間には学期休みがあります。授業は、一時限40分授業です。生徒は、1日6～7時間の授業があります。教科数は約20、モンゴル語、英語、ロシア語、数学、体育、コンピュータ、理科（7年生から4分野それぞれ学び、10、11年生は選択制です）、歴史などがあります。学級活動や総合学習のような時間はなく、放課後担任の先生のアイデアに基づいて活動する姿がたまに見られます。学校行事は、主に学年ごとに行っているようで、全学年が同時に同じ場所で行うことはありません。体育祭や合唱コンクールのようなものではなく、道徳的なことや季節に関することで行事が行われています。



生物の授業について

7年生から11年生までの授業をモンゴル人の先生と共に行っています。生物のコマ数は7～9年生は週に1、2時間、10、11年生は週に4時間授業があります。

内容は、日本で教えていることよりもはるかに多いです。また、学年が上がるごとに、同じ単元でも詳細まで学び、難しくなっていきます。時間数に対し内容が多いため、1時間に教える内容も多く、先生が説明することが大半の授業展開です。また、単元が終わるごとに単元テストがあります。教材は主に、コンピュータのスライドショーで、写真やビデオ、必要な説明はスライドの中に書いてあり、黒板に書く事はほとんどありません。たまに、大きな紙に図を書いたものや模型も使って授業をします。実験は、ほとんどないです。簡単な実験でも道具がない、やり方を知らないなど課題があり、先生たちは、セミナーや公開授業を通して、経験させる授業と考えさせる授業の手法を学んでいます。

私の主観

生徒同士で話しあうような授業、生徒の考えを発表する授業は、生物の授業の中ではあまり見られません、主に暗記中心の授業です。先生の説明だけでなく、生徒の考える力を育てる授業、話し合い・教えあいの授業、生徒の活動を多く取り入れた展開を取り入れていきたいと考えています。また、授業の展開を考え、実験や観察をどう取り入れていくか同僚の先生と考えて積極的に取り組んでいきたいです。今は教材作りに奮闘中です・・・。

生徒の様子

- ・ 生徒は、純朴で素直な印象を受けました。担当の学年の生徒は、廊下ですれ違いざまに挨拶をしてくれます。また、先生に対し、丁寧な言葉使いで話をします。教室のそうじや先生の手伝いを良くやります。しかし、宿題をやっとなかったり、授業中音楽を聴いたり、私語をしたり、モノを食べていたり集中していない様子もうかがえます。（携帯で電話していたり・・・）積極的な生徒は、宿題だけでなく自分で教材を作ってきたりもします。授業中のマナーについては日本とは大きく違うことに驚きました。
- ・ 教科書は自分で買うので、いつまで経っても教科書がない生徒もいます。（宿題ができない理由の一つ）
- ・ 先輩生徒は、後輩生徒の面倒をよく見ます。午前中と午後の生徒の入れかえの時、入口に生徒が立ち、他の生徒を誘導する姿は頼もしいです。また、小学生から高校生までいるので成長する過程を見ることができ、成長するとはどういうことなのか、生徒にとって常に見本となるお兄さんやお姉さんがいるのはとても良いことだとも思いました。



集会の様子

（学校生活の誓いを宣誓する集会）（新学期）



授業の様子①タマネギの表皮の観察（小さい顕微鏡）



先生を招いて草花についての特別講義（秋）



授業の様子②



授業で生物博物館に行きました。

定期的に、行事があります。先生たちが教科ごとにチームを作っていて、そのチームごとにイベントが企画されます。



タタトンガというクイズ大会

先生たちはモンゴルの民族衣装デールを着ました。



学校外での活動：教育大学で実験を取り入れた授業の講義をしました。